



日本赤十字社

京都第一赤十字病院

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

絆

泉山長老
俊朝

京都第一日赤だより

き

す

な

人道と奉仕の赤十字精神に基づき、
患者さまにとって安心できる
適切な医療を行ないます。

夏号

2020年8月発行

vol.

77

Contents

就任のご挨拶	2,3
診療科のご紹介	4,5
MR装置更新のお知らせ	6
入院医療コントロールセンターでの活動	7
ベストドクターズに選出されました	8

暑中お見舞い申し上げます。

平素は何かとお世話になり、誠にありがとうございます。
ます。

連日暑い日が続くおり、皆さまのご健勝をお祈り申
し上げます。

今年は京都の夏の風物詩である祇園祭りのかさ鉾巡
業が中止、五山の送り火も縮小され、仕方ないと思い
つつ寂しさを覚える方々も多いのではないのでしょうか。

COVID19は流行を繰り返し、長期的な構えで対
応する必要があります。当院でも新しい生活様式、3
密を防ぐための指針を作成し取り組んでいるところ
です。慣れない中、皆さまにはご不便をお掛けしてい

ることもあると思いますが、引き続きのご理解とご協
力をお願いいたします。

さて今年度は診療報酬改定が行われました。小幅
な改定で大きな目玉となるものではありませんが、地域
包括ケアシステムの推進は変わらず重要であり、関係
する皆様との一層の連携強化を図り、安全で安心でき
る医療と看護を実践していく所存です。COVID19の
影響で一同に会した会議や研修、カンファレンスなど
が開催できない状況にはありますが、この機会にICT
の拡大も目指し環境整備も進めたいと考えています。

今後とも皆さまのご支援をよろしくお願い申し上
げます。

副院長兼看護部長 中島 路子

就任のご挨拶

greeting 01



院長補佐／肝臓・膵臓外科部長

谷口 史洋

この度、4月1日より院長補佐を拝命いたしました。1988年に京都府立医科大学を卒業後、第二外科に入局し、社会保険鞍馬口病院、府立医科大学附属病院、蘇生会総合病院を経て2003年に京都第一赤十字病院外科および救急部に着任しました。

専門は消化器外科でしたが、着任した当時、災害派遣医療チーム“DMAT”が発足しましたので、早速、訓練を受けてDMAT隊員となりました。病院ではメスを握って癌治療をしながら、屋外ではヘルメットをかぶって瓦礫の下を潜ったり、自衛隊の輸送機に乗る訓練をしていました。

2008年に救急部を離れ化学療法部との兼務となり、外来化学療法室の拡充、化学療法を安全に運用するシステム構築などに取り組みました。

2018年からはクリニカルパス委員会委員長として、医療の質の向上を目指して、パスの使用率の向上およびパス内容の改善に取り組んでおります。多種職で積極的にカンファレンスを行い、院内パス大会を開催し、クリニカルパスの啓蒙活動を行っております。

本業の消化器外科医としては肝胆膵領域に特化し、2010年に肝胆膵外科高度技能指導医を取得しました。高難度な肝胆膵手術を積極的にかつ安全に行い、さらに腹腔鏡下肝切除・膵切除を施行し

Fumihiko Taniguchi

ております。今後はロボット膵切除の導入を予定しております。

当院は、がん診療連携拠点病院、災害拠点病院、救命センターなど多彩な機能を有しております。赴任して17年間、幅広い分野で多種職の方と連携させていただき、お陰様で数多くの経験を積み重ねることができました。4月から院長補佐として、これまでの経験を生かして、病院全体の運営、管理に目を向けて、病院スタッフが働きやすい環境を整えて参りたいと考えております。

地域の医療機関のお役に立てるように努力して参る所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

【卒業年】 昭和63年	【専門領域】 消化器外科、肝胆膵外科、化学療法
【認定医・専門等資格名】 日本外科学会指導医・専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医、日本肝胆膵外科学会評議員、日本膵臓学会認定指導医、日本胆道学会認定指導医、日本がん治療認定医機構暫定教育医・認定医、消化器がん外科治療認定医、救急科専門医	

Hiroyuki Kimura

病診連携におきましては、3月に予定しておりました東福寺消化器フォーラムや各種病診連携会が中止となり、病診の先生方には、当院医師の顔が見えづらく、ご不便をおかけしております。消化器内科は4月から京都府立医大消化器内科大腸研究班より稲田 裕、肝臓研究班より石破 博、化学療法班より安田知代を新たなスタッフとして迎え、先生方のご期待に応えるべくレベルアップを図っております。安心して患者さんをご紹介いただけますよう一層努力いたします。何卒よろしくお願い申し上げます。

【卒業年】 平成元年	【専門領域】 消化器疾患全般、特に肝臓
【認定医・専門等資格名】 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 消化器病学会指導医・専門医、肝臓病学会指導医・専門医 京都府立医科大学臨床教授	

greeting 03



感染制御部部長

弓場 達也

この度、感染制御部部長を拝命致しました、弓場達也と申します。1999年京都府立医科大学を卒業し、その後呼吸器内科大学院を卒業致しましたが、大学院後期より感染症に興味を持ち、大学の感染制御部に入局しておりました。感染症といっても、臨床と対策は全く異なる分野でありまして、明らかに私は前者が好きで感染症の分野に携わっておりました。対策は避けて通りたい分野でした。幸い当院のICTは看護師、薬剤師、検査技師、事務方と素晴らしい人材が揃っており、対策はこの方々にお任せして、「臨床を中心に頑張っていくぜ!」と目論んでおりました。

しかしコロナ騒動です。否応なしに、未だ誰も経験したことのない感染症対策を行う必要に迫られてしまいました。これも運命と思い、粛々と目に見えない敵と戦っている毎日です。しかし、大野先生、平岡先生、ICTメンバーのバックアップとほぼ全病院あげてのご協力のもと、新型コロナウイルスに関しては臨床、対策とも及第点は維持できていると考えております。鬱々とした時期

greeting 04



消化器内科副部長

藤井 秀樹

平成9年に京都府立医科大学を卒業し、京都府立医科大学第三内科と京都第一赤十字病院(ちょうどA棟ができた頃です。)で初期研修後、大学院に進学。卒業後、愛生会山科病院で一般内科診療と肝臓診療で地域医療に従事。平成27年4月から当院に再度就職しています。専門は肝臓疾患で、肝癌、難治のNASH、少ないですが高度な医療機関でしか対応できない急性肝不全など、まだまだ取り組むべき課題は多いです。消化器のスタッフや、ときに他科の先生やパラメディカルにも協力を仰ぎながら、高度で適切な医療を提供し続けられ、最終的に病院の発展に貢献していけるのではと考えています。また後輩の指導も大切な課題と考えています。当科の体制は技術、学術、医療安全を含むバックアップともに万全の体

greeting 05



糖尿病・内分泌内科副部長

岩瀬 広哉

この度、糖尿病・内分泌内科副部長を拝命致しました岩瀬広哉と申します。平成16年に京都府立医科大学を卒業し、関連病院や大学院を経て、平成27年より京都第一赤十字病院糖尿病・内分泌内科に勤務しております。

幸い当科の臨床業務は経験豊富なスタッフに支えられているものの、当科は糖尿病・内分泌疾患に関して早期・軽症例、合併症進行例・救急対応まであらゆる領域に対応しており、今後も各診療科の先生方、様々なメディカルスタッフ、地域の先生方などのご協力がなければ成り立ちません。今まで以上に連携を深め、臨床の発展に貢献できるよう頑張りたいと思います。

さらに当院の使命として、若手の先生方やメディカルスタッフなどの教育や研究についても重要なテーマと考えております。これからもより多くの実績を積み、発信していくことで、今まで以上に、患者さんはもち

Tatsuya Yumiba

もいつか終わると思われまので、皆様引き続きご協力の程、よろしく願い申し上げます。新任の挨拶にあたり、希望に溢れた展望などを記そうかと思っておりましたが、とてもそのような気分にはなれません。コロナが終わればもう一度書かせて頂きます。早く野球、サッカー、ライブなどが楽しく行われる日々を願って就任のご挨拶とさせていただきます。

【卒業年】 平成11年	【専門領域】 呼吸器全般、肺感染症
【認定医・専門等資格名】 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本呼吸器学会専門医・指導医、日本感染症学会専門医、日本化学療法学会抗菌化学療法認定医、日本がん治療認定機構がん治療認定医、ICD制度協議会認定ICD、日本結核病学会結核・抗酸菌症認定医、エイズ学会認定医、JMECCインストラクター	

Hideki Fujii

制です。一人でも多くの若い先生方の進路として選んでいただけるような科になればと思います。

最後になりましたが令和2年度は新型コロナウイルス感染症ではじまりました。一日も早く克服できることを祈念しています。よろしくお願いいたします。

【卒業年】 平成9年	【専門領域】 消化器疾患全般、肝臓
【認定医・専門等資格名】 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医、日本肝臓学会指導医、日本がん治療認定医	

Hiroya Iwase

ろん、地域の先生方や若手の先生方にも選ばれる病院になるよう尽力してまいる所存です。どうぞよろしくお願い致します。

【卒業年】 平成16年	【認定医・専門等資格名】 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医、研修指導医、日本病態栄養学会病態栄養専門医、病態栄養専門医研修指導医 日本静脈経腸栄養学会TNT研修会修了、京都府立医科大学臨床講師
----------------	--

診療科のご紹介

・泌尿器科／腎臓内科・腎不全科



【診療スタッフ 敬称略】

前列左より、(泌尿器科) 粥川 成優、三神 一哉、(腎臓内科・腎不全科) 中ノ内 恒如、菌村 和宏、中山 雅由花
後列左より、(泌尿器科) 尾崎 慎司、村下 純輝、岩本 鴻太郎、(腎臓内科・腎不全科) 太田 矩義、山内 紘子、飯森 未沙

泌尿器科

泌尿器科・部長 | 三神 一哉

先生方にはいつも大変お世話になっております。この場をお借りして、厚くお礼を申し上げます。

泌尿器科として総勢 5名ですが、診療は腎不全科の中ノ内恒如部長のヘルプを仰いで 6名で行っています。中ノ内部長と私以外のスタッフの在任期間が短く、皆様にご迷惑をおかけしています。

この 10-20年で泌尿器科の医療は大きく変化しました。手術療法では腹腔鏡下手術が一般的になりました。他科に先駆けてロボット支援手術が行われており、当院でも2019

年にダヴィンチが導入されました。前立腺癌・腎癌の手術に取り組んでいます。結石では、体外衝撃波から尿管鏡下手術の時代になりました。がんに対する薬物療法でも、分子標的治療・IO治療などが導入、排尿障害では過活動膀胱の概念が確立され様々な治療薬が開発されました。常に新しい治療を取り入れ、患者さんに還元できるように努力しています。

泌尿器科を標榜している医療機関は意外に多くあります。泌尿器科医療でお困りの際には、簡単なことでも結構です。いつでもご紹介いただければと思います。

【卒業年】
平成2年

【専門領域】
泌尿器科腫瘍

【認定医・専門医等資格名】

日本泌尿器科学会 専門医・指導医
日本泌尿器内視鏡学会 腹腔鏡技術認定医
がん治療認定医機構 がん治療認定医

日本がん検診・診断学会 がん検診認定医
京都府立医科大学臨床教授

	月	火	水	木	金
一診	三神	粥川	粥川／中ノ内 (隔週)	尾崎	中ノ内
二診	村下		担当医／尾崎 (隔週)		岩本
午後診	村下／三神				中ノ内／岩本

腎臓内科・腎不全科

腎臓内科 腎不全科・部長

| 中ノ内 恒如

病診連携の先生方におかれましては、日頃より大変お世話になっております。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

近年生活習慣の変化や高齢化もあり「慢性腎臓病(CKD)」が増加しており、それに伴い透析導入数もいまだ増加傾向にあります。CKDは心血管疾患、認知機能障害などとも深く関係しています。私たちは大事な腎臓機能を保持するために、「慢性腎臓病や糸球体腎炎などの治療」を行い、また残念ながら透析導入となった方には「内シャントなどの透析外科領

域や透析合併症の治療」も行っています。さらに急性期病院としての当院においては「急性腎障害や敗血症に対する集中治療室での急性血液浄化療法(持続血液濾過透析、エンドトキシン吸着、血漿交換など)」も重要で、「腎臓内科・腎不全科」という他ではあまり聞かない科名は、私たちがこういった「腎臓に関する全ての領域」を扱うところから来ています。

私たち総勢7名、京都における腎疾患の「駆け込み寺」たるべく、日々奮闘してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【卒業年】
平成6年

【専門領域】

急性血液浄化療法、急性腎障害、慢性腎臓病、
血液透析、バスキュラーアクセス、泌尿器科一般

【認定医・専門等資格名】

日本透析医学会専門医・指導医
日本急性血液浄化学会認定指導者
日本泌尿器科学会専門医・指導医

京都透析医会会長
京都府立医科大学臨床準教授

	月	火	水	木	金
一診(26診)		中山		菌村	
二診(29診)		飯森		山内	太田
午後診	菌村 (予約初診のみ)	中山/飯森		菌村/山内	太田

腎臓内科・腎不全科

腎臓内科 腎不全科・副部長

| 菌村 和宏

私達は慢性腎臓病(CKD)診療から糸球体腎炎の治療、高血圧診療、電解質異常、透析まで腎臓をtotalで診ています。腎臓病の予防はもちろん、腎臓病になったとしても根治治療を積極的に行い、CKD患者さんには進行抑制をして透析まで至らせないことを目標としています。また透析が必要になった方にも最高レベルの医療を提供することをお約束します。

【得意分野】

●CKD検査教育入院

日本は罹患率が20%という全世界の中でもトップクラスの

「CKD大国」です。CKD教育入院を通じて腎不全進行抑制に全精力を傾けています。入院により腎不全進行抑制できた方が増加しています。個々の患者さんの腎機能増悪因子、つまり「何が腎不全を増悪させているのか」をつきとめて、データを解析することにより治療方針を立てます。

●糸球体腎炎治療(腎生検)

腎生検数は府内で最も多く、正確な診断治療を行っています。これまでの豊富な経験を活かして、個々の患者さんに合わせて適切な治療を行います。

【卒業年】
平成13年

【専門領域】

腎炎、急性腎障害、慢性腎臓病、急性血液浄化療法、血液透析、高血圧、電解質異常

【認定医・専門等資格名】

日本腎臓学会腎臓専門医・指導医
日本透析学会専門医・指導医

日本内科学会総合内科専門医・指導医
京都腎臓医会理事 執行部学術委員

【卒業年】
平成13年

【専門領域】

腎炎、急性腎障害、慢性腎臓病、急性血液浄化療法、血液透析、高血圧、電解質異常

【認定医・専門等資格名】

日本腎臓学会腎臓専門医・指導医
日本透析学会専門医・指導医

日本内科学会総合内科専門医・指導医
京都腎臓医会理事 執行部学術委員

MR



図1 フィリップス社製 Ingenia Elition 3.0T



図2 フィリップス社製 Ingenia Elition 3.0T

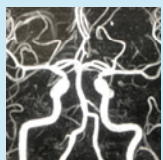


図3

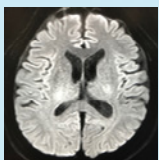


図4

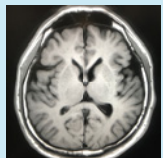


図5



図6

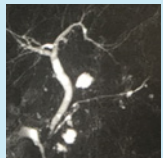


図7

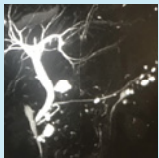


図8



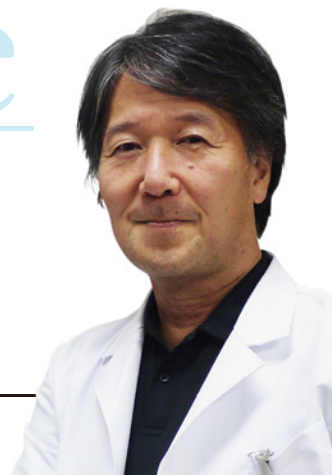
図9

device

MR装置更新のお知らせ

放射線診断科・部長

大野 浩司



世界最高機種であるMRI装置、フィリップス社製 Ingenia Elition 3.0T が、令和2年4月から京都第一赤十字病院に導入され稼働しています。

検査時間は、半分に短縮しながら、他の機種、他メーカーの3テスラのMRIの追従を許さない、びっくりするような高画質です。

〔図1、2〕フィリップス社製 Ingenia Elition 3.0T の全貌

奥の壁に投影されている動画を、シースルーグラスモニターで見ながら検査が受けられます。

私自ら試運転の第一号になり、頭部を撮ってもらいました。

若々しい頭していますね、と称賛されましたが、実際末梢まで脳動脈が良く描出されています。

〔図3〕脳MRA

〔図4〕脳拡散強調画像、歪みのない高分解能の画像になっています。

〔図5〕脳T1強調画像、明瞭な高分解能の画質です。

検査中は、シースルーグラスモニターを目の前に装着して、アニメーションを見ながら検査を受けられ、圧迫感を感じさせません。

脳梗塞、脳動脈瘤の精査

脾臓の精査

前立腺、子宮、卵巣腫瘍の精査

膝、肩、脊椎領域

などにこのMRIの良い適応があります。

〔図6〕膝矢状断T2強調画像、前十字靱帯の部分断裂後3年以上経ちますが、亀裂を残しながらなんとかくっついています。

フィリップス社製 Ingenia Elition 3.0T の革新技術の2点

1.新設計グラジエントシステムにより、信号低下の軽減および短時間撮影を実現するとともに、高空間分解能撮像時のブラーリング低減を可能にしています。従来とくらべて60%の空間分解能の向上、拡散強調画像のコントラスト分解能を70%向上することが可能です。

2.Compressed SENSEにより全身領域の検査において50%の高速化を実現しています。

〔図7〕従来の1.5テスラの脾臓の画像

〔図8〕3テスラインジーニアエリシオンの画像。嚢胞性病変、脾管の明瞭度が段違いに良好なことがわかります。

〔図9〕日経新聞のサイトのQRコードです。

【卒業年】
昭和56年

【認定医・専門等資格名】
放射線診断専門医、日本IVR専門医、
日本血管造影・IVR学会 関西地方会 世話人、
日本医学放射線学会 関西地方会 世話人、
関西アンギオカンファレンス 世話人

本装置については、令和元年度医療提供体制推進事業費補助金（共同利用施設設備整備事業）の補助を受けて整備いたしました。

with corona

京都府新型コロナウイルス感染症

入院医療コントロールセンターでの活動

臨床工学技術課 課長
日本DMAT隊員 業務調整員

宮下 誠

DMAT

皆様、平素は当院の高度・急性期医療にご協力賜りまして誠にありがとうございます。新型コロナウイルスの世界的大流行により緊急事態宣言が発令され当院もゲートコントロールやゾーニングなど院内体制を強化して対応致しました。その際、患者様や関連医療機関の皆様にはご不便で迷惑をお掛け致しましたことお詫び申し上げます。現在、第一波は収束致しましたが第二波、第三波の到来が予測されます。「with corona」に代表されるように今後はコロナと共に生きていく時代になるのでしょうか。

さて、この度僥倖ながら「京都府新型コロナウイルス感染症入院医療コントロールセンター」にてDMAT隊員（業務調整員）として活動させて頂きましたので報告致します。当センターは京都府庁内の臨時機関として設立され府内に在住されているコロナウイルス陽性患者様（以下「陽性者」）の病態を把握して医療機関への入院調整またはホテル入所調整を行います。よって陽性者を受け入れて頂ける府内の各医療機関の感染症病床把握など情報管理も行います。構成メンバーは京都府庁職員（医師を含む）、DMAT医師、看護師、業務調整員でありピーク時は8名体制で活動していました。情報の流れとしては各所管の保

健所より当センターに陽性者の発生連絡があり、センター内で患者様の症状や背景、受け入れ医療機関の病床状況を鑑み入院施設を決定します。次に当該医療機関へ入院依頼をして了承となれば所管の保健所に搬送調整の連絡をします。そして患者様が入院された時点で保健所から入院完了の報告が入ります。その後病状が安定し無症状となればホテルへの入所調整を行い医療機関の病床を少しでも空け有症患者様が入院出来る様に調整しています。

私的な感想ですが当センターでは入院調整が上手く行かずジレンマに陥ることもありましたが、新規陽性患者数が日に日に減少し、「本日の新規発生者数0名」の連絡を受けた時はセンターの皆で安堵をしたことや次に備えて帯を締め直したことが大変印象に残っています。最後になりますが今回、京都府をはじめ、保健所、そして医療機関の職員の皆様と活動させて頂く機会をいただきました。全員が一丸となってこの危機を乗り切ろうと一所懸命「身を粉にして」働いていることにとても感銘を受けました。この状態はしばらく続くと思います。引き続き皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

Makoto Miyashita



大澤 透 整形外科主任部長が 【ベスト】 【ドクターズ】 Best Doctorsに 選出されました。



院長補佐、整形外科主任部長 大澤 透 がベストドクターズ社より
医師同士の相互評価によって「Best Doctors Japan 2020-2021」に選出されました。

これで三度目の選出となります。

ベストドクターズ社の名医選出方法は、医師に対して
「もし、自分や大切な人が、自分の専門分野の病気にかかった場合、
自分以外の誰に治療を委ねるか」という観点から、他の医師についての
評価を伺うことで進められ、最終的に調査結果から一定以上の評価を得た医師を
名医 (Best Doctors) に認定するというものです。

現在、世界中で約53,000名以上の医師が名医として認定されており、
日本では約6,500名が認定されています。

(医師数は2020年3月現在)

院長補佐／整形外科主任部長

大澤 透

[専門領域]

脊椎脊髄疾患、内視鏡脊椎手術、末梢神経疾患、電気生理診断

[認定医・専門等資格名]

日本整形外科学会認定専門医、
日本整形外科学会脊椎脊髄病医、
日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医、
京都府立医科大学臨床教授

ベストドクターズ公式サイト

<http://bestdoctors.com/japan/>

個人HP

<http://spine-clinic.jp/>